



第42回日本整形外科スポーツ医学会学術集会
ランチオンセミナー 7



札幌コンベンションセンター
第2会場 中ホールA+B

会場

〒003-0006 札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1
TEL.011-817-1010

日時

2016年9月17日(土)
12:30~13:30

スポーツによる 手・手関節の外傷・障害

座長

名古屋市立大学大学院医学研究科 整形外科学分野 教授

大塚 隆信 先生

演者

琉球大学大学院整形外科学講座 教授

金谷 文則 先生

認定単位

専門医必須分野番号：N-2外傷性疾患(スポーツ障害を含む)、N-10 手関節・手疾患(外傷を含む) } いずれか1単位
教育研修会認定単位：(S)教育研修会スポーツ単位

その他認定単位：日本医師会認定健康スポーツ医制度再研修会単位

スポーツによる 手・手関節の外傷・障害

演者

金谷 文則

(かなや ふみのり)



スポーツ傷害には1回の外傷により生じるスポーツ外傷と頻回・反復する動作により生じるスポーツ障害があり、手にはスポーツ外傷が多い。低エネルギー損傷が多く、保存的治療で良好な回復が得られる。

1. 橈骨遠位端骨折：背屈型が多くサッカーの転倒などで生じる。小児では骨端線損傷を生じる。保存療法で良好な結果が得られる。
2. 手関節傷害(橈骨遠位端骨折を除く)：手根骨骨折は疼痛・腫脹が橈骨遠位端骨折に比べて軽度なため捻挫として治療されやすくX-pの読影に熟練を要することから陳旧例になって受診することも多い。
 - a. 舟状骨骨折：手根骨骨折の70%を占め、転倒による手関節背屈強制やサッカーのゴールキーパーが手をはじかれて生じることが多い。嗅ぎタバコ窩(snuff box)に圧痛・腫脹が有れば、本骨折を疑う。転位が有り不安定な例では手術を行う。
 - b. 有鉤骨鉤骨折：ラケットやクラブのグリップエンドで受傷することが多い。偽関節は小指屈筋腱断裂の原因になるため陳旧例では骨片切除を行う。
 - c. 月状骨周囲脱臼：スノーボードの転倒などの手関節の背屈強制により生じる。高度な腫脹を来すが、初診時に見逃されることも多い。
 - d. TFCC(三角線維軟骨複合体)損傷：手関節の掌背屈、回内・回外の強制で生じる。手関節尺側部痛があり、クリックを伴うことが多い。新鮮例では3週間の安静・固定でスポーツ復帰が可能になる例が多いが、捻挫と診断され十分な固定を行わずに陳旧例になったものは手術が必要である。
3. 手関節腱鞘炎：オーバーユースによる手関節屈筋・伸筋の腱鞘炎がテニスとバレーボールに多い。尺側手根伸筋腱の脱臼はアイスホッケーに特徴的である。
4. 中手骨骨折・指節骨折：転位していない骨折、整復後に安定した骨折は原則として保存的に治療する。回旋変形を残すと指交叉現象を来す。
5. 母指・手指 MP 関節損傷
 - a. 母指ロッキング：母指MP関節が背屈を強制され、種子骨が中手骨骨頭に乗り上がり屈曲できなくなった状態であり、さらに背屈強制されると背側脱臼になる。
 - b. 側副靭帯損傷(Stener lesion)：ラケットを持ったまま転倒して受傷することが多い。靭帯断端が母指内転筋腱に隔たれ自然修復できないので手術的に修復する。
 - c. 側副靭帯附着部裂離骨折：骨片転位がある例では骨接合を行う。
6. PIP(IP) 関節損傷
 - ① 靭帯損傷：単独損傷や脱臼例でも整復後に安定していれば隣接指テープ固定(buddy taping)で治療できる。
 - ② 背側脱臼：多くは整復後に安定しており、副子またはテーピング固定を行う。伸展位で不安定な例は伸展ブロックピン、掌側骨片が関節面の40%以上を占める例や関節面の陥没骨折を伴う例では手術が必要である。
 - ③ 単顆骨折：受傷機転や症状が靭帯断裂に類似し骨片が見えにくいことから、突き指と診断されやすい。
7. 突き指(いわゆる)

指に長軸方向に外力が加わって生じるケガの総称であり、骨折、靭帯損傷、軟骨(関節)損傷、腱損傷などの多様な病態を含む。

学歴・職歴

1978年 3月 20日
新潟大学医学部卒業、整形外科入局
1987年 7月～1990年 5月
Hand & Micro Fellow(U of Louisville, Kentucky)
1991年 4月
琉球大学医学部整形外科助教授
1991年 11月～12月
AO fellow(Kantonsspital Basel, Switzerland)
1997年 2月～3月
AOA/JOA(米国/日本整形外科学会) Traveling Fellow
2000年 4月
琉球大学医学部整形外科教授
2010年 4月～2016年 3月
医師国家試験委員(特別公務員)
2011年 4月
琉球大学大学院医学研究科整形外科教授 現在に至る
2014年 4月～2016年 3月
琉球大学教育研究評議会評議員

資格、専門医

義肢補装具等判定医
整形外科専門医
リハビリテーション専門医
日本体育協会スポーツドクター
リウマチ専門医・指導医
手外科専門医

学会

理事
日本整形外科学会(基礎学会会長 2017)
日本末梢神経学会(会長 2011)
日本肘学会(会長 2015)
日本マイクロサージャリー学会理事長(会長 2002)

代議員
日本リハビリテーション医学会
日本リウマチ学会
日本手外科学会(会長 2014)
AO Trauma trustee, American Society for Surgery of the Hand International Member
Asian Pacific Federation of Societies for Surgery of the Hand National Delegate